

氏名	小 寺 正 人
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3430 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	INVOLVEMENT OF APOPTOSIS IN ACTIVATION-INDUCED CELL DEATH OF BACTERIA-REACTIVE HUMAN CD45RO+T CELLS (細菌反応性のCD45RO陽性ヒトTリンパ球の、活性化により誘導された細胞死における、アポトーシスとの関係)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 小熊 恵二 教授 清水 信義

学位論文内容の要旨

我々は細菌感染症患者の末梢血中の T 細胞の数が減少しているのは、細菌抗原による activation-induced cell death (AICD)の結果であることを明らかにした。

フローサイトメトリーによる解析で健常人と重症肺炎患者の末梢血より T 細胞を分離したところアポトーシスを認めたのは 0.3%以下であった。しかし、培養すると患者末梢血 T 細胞中のアポトーシスの割合は 3.0±0.9%に増加、anti-CD3 存在下では更に増加し、それに IL-2 を添加すると減少した。一方健常人ではこのような変化は認められなかった。

anti - CD3 は患者の CD45RO 陽性 T 細胞のアポトーシス感受性を有意に増加させたが、CD45RA 陽性細胞では増加させなかった。また、患者の CD45RO 陽性細胞の割合は健常人のそれより有意に高かった。

従って CD45RO 陽性 T 細胞が AICD を起こすことで、細菌感染症で細菌に反応した T 細胞が消失するものと考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、細菌感染症患者の末梢血 T細胞の activation-induced cell death (AICD) を検討したものである。この結果、抗 CD3 刺激 CD45RO 陽性 T細胞のアポトーシス感受性に有意の上昇を認めた。これは、細菌感染症における AICD の意義を明らかにする上で重要な知見であり、価値ある業績であるとして認める。よって、本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。